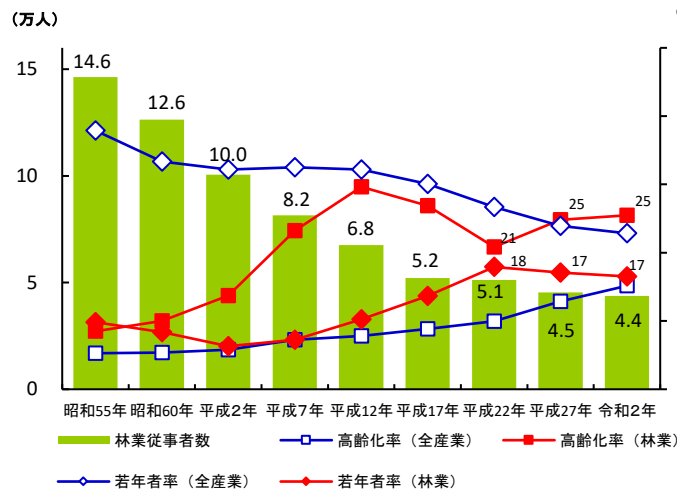
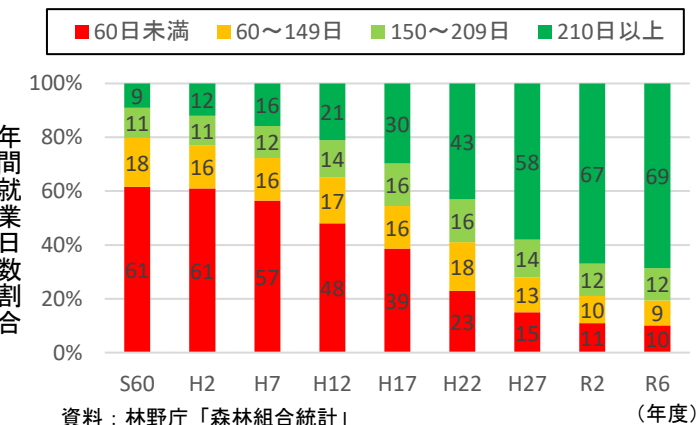


一目でわかる林業労働（データ編）

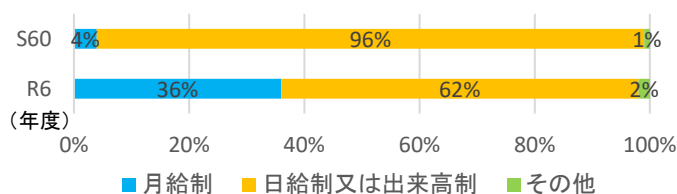
○ 林業従事者数は減少傾向



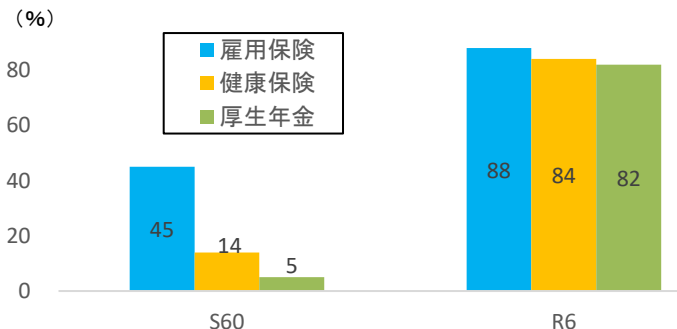
○ 年間210日以上就業割合は約7割に上昇



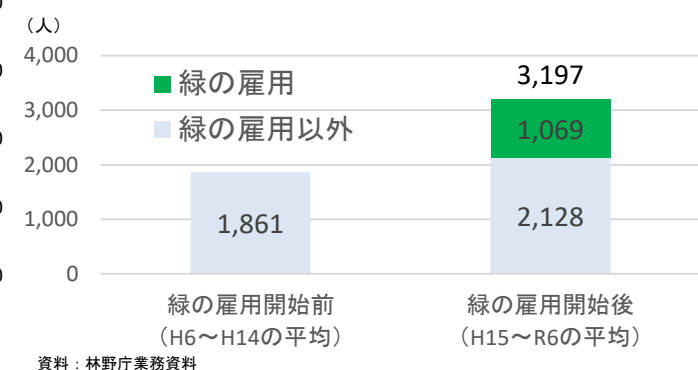
○ 月給制の割合は約3割に上昇



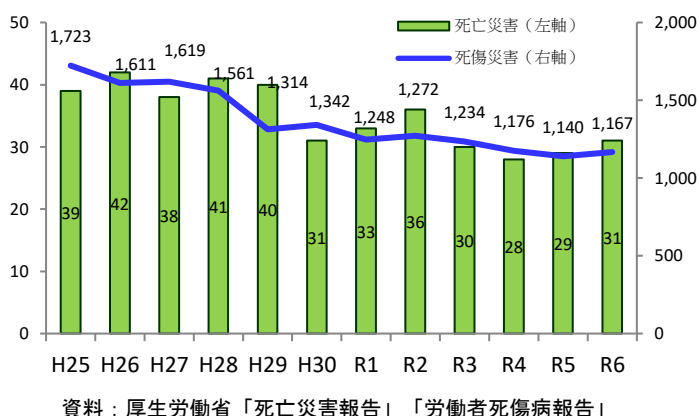
○ 社会保険の加入割合は約8割に上昇



○ 「緑の雇用」事業開始後 新規就業者は毎年約3200人に増加



○ 労働災害は長期的に減少

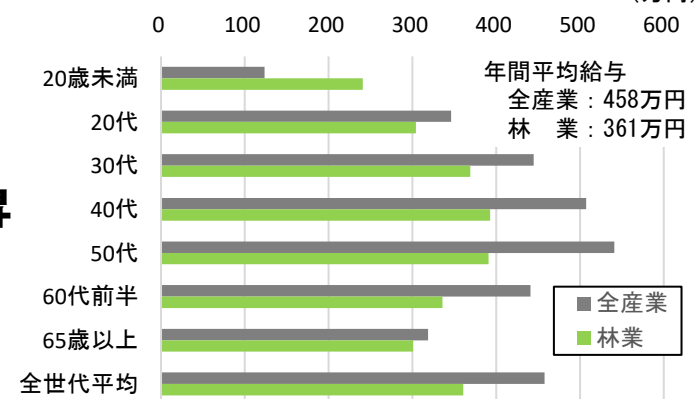


○ 災害発生率は全産業の約10倍

死傷年千人率（令和6年）	
全産業	2.3
林業	23.3
木材・木製品製造業	11.4

資料：厚生労働省「業種別死傷年千人率」
注：死傷年千人率とは、労働者1000人あたり1年間に発生する労働災害による死傷者数（休業4日以上）を示したもの。

○ 平均給与は約360万円



一目でわかる林業労働（写真編）

○現場での作業風景



植栽作業



下刈り作業



伐倒作業



○現場で使われる主な林業機械



ハーベスタ (2,272台)

従来チェーンソーで行なっていた立木の伐倒、枝払い、玉切りの各作業と玉切りした材の集積作業を一貫して行う自走式機械。



プロセッサ (2,348台)

林道や土場などで、全木集材されてきた材の枝払い、測尺、玉切りを連続して行う自走式機械。



フォワーダ (5,186台)

玉切りした短幹材をグラップルクレーンで荷台に積んで運ぶ集材専用の自走式機械。

注：()内の数字は令和6年度末現在における全国での導入台数である。